



## Course

# Discovering Dutch agriculture and horticulture

## Drivers behind its success and lessons for Japan

**The Netherlands and Japan have a lot in common with respect to population density, education level, work ethic, available technology, welfare standards, short distance to metropolitan areas ageing population, etcetera. Also when it comes to agriculture: e.g. the predominance of family farms, strong cooperative organizations, fertile soil and high land prices. So why is it that in the Netherlands the total agricultural export is 53% higher than the total agricultural import whereas in Japan, the total agricultural import is 1488% higher than the total agricultural export?**

### Target Group

Many Japanese national and prefectural government bodies, universities, other knowledge institutions, and businesses can profit by learning more about the successful supply chains in Dutch agriculture and horticulture. This dedicated course will serve the curiosity and interest of many in Japan (as a policy maker, teacher or businessman) to learn what routes can bring the desired outcomes with respect to food production and rural development in Japan.

### Result

After the course, participants will have new ideas and insights about how to implement new strategies and policies to their own situation in Japan. Furthermore:

- Participants will have course material about the Dutch agri&food ready to use in Japan
- Participants will have built a network of Dutch experts in agri&food supply and processing companies

**Location:** Wageningen

**Dates:** 19 till 30 March 2018  
(10-day programme)

**Course leader:** Dr. ir. Jos Verstegen: senior researcher entrepreneurship, Wageningen Economic Research (WUR) and visiting professor Miyazaki Sangyo-keiei University

### Our approach

The programme is built around three pillars (modules). Each module consists of three days and is built around the same structure.

Module 1 Facts and Figures of Dutch Agriculture and Horticulture

Module 2 Agricultural policy and institutions

Module 3 The Future of Agriculture and Horticulture



## Programme

### Module 1 Facts and Figures of Dutch Agriculture and Horticulture

**Day 1** Presentations from researchers and teachers of Wageningen University & Research (WUR).

**Day 2** Field trips and masterclasses.

**Day 3** Experts and participants review and discuss possible ways forward.

### Module 2 Agricultural policy and institutions

**Day 4** Presentations from researchers and teachers of Wageningen University & Research (WUR).

**Day 5** Field trips and masterclasses.

**Day 6** Experts and participants review and discuss possible ways forward.

### Module 3 The Future of Agriculture and Horticulture

**Day 7** Presentations from researchers and teachers of Wageningen University & Research (WUR).

**Day 8** Field trips and masterclasses.

**Day 9** Experts and participants review and discuss possible ways forward.

**Day 10** Participants present their lessons learnt to panel of experts.

Companies and international students and experts from Wageningen University & Research (WUR) will be invited to the networking dinner.

### Advisory Committee

**Dr. Evert Jan Krajenbrink** Agricultural counsellor at Royal Netherlands Embassy Tokyo

**Mr. Frederik Vossenaar** Netherlands Ministry of Economic Affairs

**Mr. Takayuki Miyazaki** Project manager Research Promotion Division, Agriculture, Forestry and Fisheries Department – Wakayama Prefectural Government

**Mr. Kenichi Tanaka** Associate professor – Miyazaki Sangyo-keiei University

## Practical information

### Costs

The course fee of 3,000.- euro per person covers tuition, course materials, coffee/tea/soft drinks, snacks, lunches and 1 networking dinner. The course fee does not include hotel overnight accommodation and dinners.

### Registration

Registration closes at 28 February 2018. Participants will receive information about the program shortly after this date. Registration is possible via [www.wageningenacademy.nl/en](http://www.wageningenacademy.nl/en).

Recruitment and selection of Japanese participants will take place in consultation with the programme committee. Japanese translation will be provided.

## General Terms

The General Terms and Conditions of Wageningen Academy apply to all activities of Wageningen Academy: [www.wageningenacademy.nl/en](http://www.wageningenacademy.nl/en).



## Our offer

Wageningen Academy also offers in company training, distance learning modules and summer schools. Check our website for more options.

## Contact

### Programmamanager

Liesbeth Vallinga MSc

T 317 487 602

E [liesbeth.vallinga@wur.nl](mailto:liesbeth.vallinga@wur.nl)

Today's knowledge,  
tomorrow's business



## Discovering Dutch agriculture and horticulture

その成功の原動力と日本に向けてのレッスン（日本語通訳付き）



### プログラムリーダー

**Dr. ヨス ファーステヘン:** ワーヘニンゲン農業経済研究所（WUR）主任研究員、  
宮崎産業経営大学 客員教授

カリキュラムは、以下のアドバイザー委員会と協議して開発しています:

**Dr. エファート ヤン クライヤンブリック:** 駐日オランダ王国大使館 農業担当参事官

**フレデリック ヴォスナー:** オランダ王国経済省

**宮崎 崇之:** 和歌山県庁農林水産部研究推進室 副主査

**田中 賢一:** 宮崎産業経営大学 准教授

場所: オランダ王国 ワーヘニンゲン市（フードバレーの中心地）

現地調査先: オランダ国内の主要箇所

講義場所: ワーヘニンゲン大学研究センター キャンパス（ワーヘニンゲン市）

## Discovering Dutch agriculture and horticulture

*日本とオランダ: 多くの共通点はあるが...*

オランダと日本は、人口密度、教育レベル、労働倫理、科学技術、福祉、大都市圏への近さ（オランダの場合：ロンドン、ベルリン、パリ）、高齢化社会などに関して多くの共通点があります。農業についても、家族経営が中心であること、強固な協同組合、肥沃な土壌、高い土地価格などにおいて似ている部分が多くあります。それではどうして、オランダの農産物輸出額は輸入額より 53%も大きいのかに対して、日本の農産物輸入額は輸出額より 148%も大きいのでしょうか？（国連商品貿易統計データベース（UN Comtrade）2014 年数値より）

*単純な答えはない*

当然ながら、オランダと日本の農業・園芸の違いを一つの簡単な説明で済ませることはできません。オランダは、穏やかな気候や非常に平坦な国土を有するという利点があるのに対し、日本は地震や台風、そして山地が多いという点に立ち向かわなければなりません。さらに、日本は高度経済成長を実現し、そのことが原因で多くの（若い）人々が農村から都市部に移り住みました。一方、オランダでは緩やかな経済成長であったため、農村には十分な数の若者が残ることになり、彼らが農業・園芸のサプライチェーンを築き上げました。さらに、第二次世界大戦後に復興が成功したことや、関税障壁撤廃（EU 1992）により EU 単一市場が誕生したことが要因となり、農業の近代化が進みました。これらの歴史的な相違が、両国の農業・園芸への力点の違いを生み出し、その結果、各種機関、知識イノベーションシステムとクラスター、コンセプトとブランド、サプライチェーン、国際貿易、ベンチャー風土と能力を活用し、支援する政策において違いが出ています。

*ディスカバリートリップ*

多くの日本の国・地方自治体、大学、その他研究機関や民間企業が、オランダの農業・園芸において成功を収めているサプライチェーンに興味を示しています。近年、安倍首相や衆議院農林水産委員会調査議員団も、ウェストランドを訪問し、施設園芸を視察しました。ワーヘニンゲン大学研究センターの専門家にとって、自身の経験を共有できることは喜ばしいことであり、日本の方々の要望に応えるため、これまでにない特別なプログラム（日本語通訳付き）を開発しました。本コースでは、本当の意味で、農業生産や農村振興において、望ましい成果を出すための手法を学ぶことができ、多くの日本の方々（政策立案者、教員やビジネスマン）の好奇心や興味にお応えする内容となっています。さらに、マスタークラスやグループ課題だけではなく、最先端の農業関連施設をいくつか訪問します。プログラム最終日には、参加者はコースを受けて学んだことを自身の仕事（政策立案者、教員やビジネスマンとして）に活かすためのレポートを作成し、発表します。

本プログラムは3つの柱（プログラムではモジュールと呼びます）からできています。それぞれのモジュールは3日間から成り、以下のように構成されています

*1日目* ワーヘニンゲン大学研究センター（WUR）キャンパス内での著名な研究者や教員によるプレゼンテーション

*2日目* 実際の現場を知るため、現地調査と現場の専門家によるマスターコースを実施

3日目 得られた知識や経験を踏まえて、専門家と参加者が学んだことを総括し、日本農業の発展に向けた実現可能な対応策について意見交換

10日目には、参加者が、専門家パネルに本コースで学んだことを発表します。その後の進め方については、参加者、専門家で話し合っ決めていきます。

### 成果

コース終了後、参加者は日本での自身の置かれている立場から、新たな戦略や政策を実行する際に必要な知識や洞察力を身につけることができます。

また、本コースに参加することで、

- オランダの農業・食品セクターに関する教材を入手でき、それらを日本でも使用できます。（日本語翻訳あり）
- 農業・食品セクターにおけるオランダの専門家とネットワークを構築できます。



## 10日間プログラム

### モジュール 1 オランダ農業と園芸の実際

1日目	テーマ
	ワーヘニンゲン大学研究センターの役員会メンバーによる開会挨拶
	イントロダクション：参加者の関心事項や期待することを共有
	ワーヘニンゲン大学研究センターの概要について
	オランダ農業・園芸についての歴史と発展についてのプレゼンテーション
	オランダ農業と園芸の実際についてのプレゼンテーション（経済規模、事業継承、サプライチェーン、ロジスティクス、多面的機能を生かした農業）。日本農業・園芸との比較を行います。
	ワーヘニンゲン大学研究センターの見学
2日目	日本でビジネスをしているオランダ企業とヨーロッパでビジネスをしている日本企業によるプレゼンテーション
3日目	オランダ農業と園芸の実際についての議論
	日本とオランダの違いの要因は何か？日本に持ち帰りたい重要事項は何か？日本でどのような農業・園芸のかたちが成功するか？どの生産品目が将来有望か？農業者にとって、どのようなビジネスモデルが付加価値や高収入を生み出すか？日本の農業を発展させるための戦略は何か？
	レポート、プレゼンテーションの準備

### モジュール 2 農業政策と農業を支える関連機関

4日目	テーマ
	オランダ農業知識イノベーションシステムと「ゴールデントライアングル」の産学官連携についてのプレゼンテーション
	EU及びオランダの農業政策（環境規制、品質基準、地理的表示保護など）についてのプレゼンテーション
	オランダの農業政策（トップセクター、土地取引規制、イノベーション、補助金、輸出促進など）についてのプレゼンテーション
	オランダの協同組合、農業者団体、民間企業、国内及び国際サプライチェーン（低温）、小売などアグリビジネスについてのプレゼンテーション
5日目	世界最大の花市場 FloraHolland、青果物販売会社 The Greenery への現地調査
	最先端の施設園芸企業と小売物流センターへの現地調査
6日目	農業政策と農業を支える関連機関についての議論
	日本農業とオランダ農業の違いの要因は何か？日本に持ち帰りたい重要事項は何か？農林水産物・食品の輸出（2019年に1兆円）そして食料自給率（2025年に45%）の目標を達成するためには、どのような農業政策が必要か？
	レポート、プレゼンテーションの準備

交流会（夕食会）

企業やワーヘニンゲン大学研究センターの留学生や専門家を招待します。

### モジュール 3 未来の農業と園芸

7日目	テーマ
	イノベーション、アントレプレナーシップ教育、普及と研修、新しいビジネスモデル（都市農業、多面的機能を生かした農業、有機農業、カット野菜・フルーツ等便利な食品、ネットショップ）についてのプレゼンテーション
	都市農業及び垂直農法（LED ライト利用）についてのプレゼンテーション
	農業・園芸のサプライチェーンにおけるビッグデータプラットフォーム（透明性、効率的なロジスティクス、カスタマイズ化）についてのプレゼンテーション
	施設園芸の最新動向（施設設置、環境制御、省エネルギー（次世代型栽培））についてのプレゼンテーション
	農業における遺伝子技術についてのプレゼンテーション
8日目	Agricultural Entrepreneur of the Year 受賞企業への現地調査
	都市型グリーンハウスでの垂直農法を現地調査
9日目	未来の農業と園芸についての議論
	日本に持ち帰りたい重要事項は何か？日本は、都市部、地方どちらで食料生産するか？オランダの場合はどうか？
	レポート、プレゼンテーションの準備
10日目	参加者が専門家のパネル（本プログラムに関与した企業や専門家）に学んだことを発表します。
	結論：日本に持ち帰り、皆に伝えたい一番の重要事項は何か？
	プログラムの評価
	修了式
	グループ写真撮影
	閉会式（飲み物付き）

## 参加要項

### 10日間プログラム

- 参加費用：3,000 ユーロ
- 参加可能最大人数：16名

参加費用には、以下のものが含まれます：

- 通訳
- 現地調査にかかる交通
- 飲み物と昼食
- 交流会（夕食会）
- 教材（プレゼンテーション資料は日本語翻訳あり）
- 修了証
- グループ写真

以下のものは含まれません（ただし、手配は可能です）：

- 宿泊代と朝食
- 夕食
- 航空運賃、海外旅行保険

### 役割と責任

プログラムリーダー：Dr. ヨス ファーステヘン

参加者の募集や決定については、プログラム委員会と相談して行います。

アドバイザー委員会：コースプログラムの調整

ワーヘニンゲンアカデミー：プログラムとプロジェクト運営（各種調整、予算、連絡等）

